

燦燦ニューズレター

発行
上智大学金祝燦燦会
〒102-8554 千代田区紀尾井町 7-1
上智大学ソフィア会事務局気付

第一回「教皇フランシスコ来学記念表彰」を受賞しました



写真提供ソフィア会

教皇フランシスコの来学（2019年11月26日）の記憶を永くとどめるため、上智学院は「教皇フランシスコ来学記念基金」を創設しました。そして、3月25日に、2号館17階国際会議場にて「第一回教皇フランシスコ来学記念表彰式」が開催されました。この基金の目的は、教皇フランシスコのメッセージの中に込められている様々な課題への取り組みを支援することであり、貧困や社会的弱者の課題、多文化共生社会の実現や、地球環境問題などに取り組む教育・研究活動、学生・生徒活動への支援をより強化するためです。

金祝燦燦会は、「金祝後もソフィアンとして母校に貢献するため、一貫して本学の外国人留学生の支援・交流を活動の中心に置き、留学生による日本語スピーチコンテストの開催、金祝奨励金を支給するなど、国内での留学生活の心の支えとなり、多文化共生社会の実現に向けた様々な活動を続けている。」「その活動がまさに教皇のメッセージに合致するもので、後進の模範となる。」ということで今回の受賞につながったものです。

栄えある第一回目の受賞は、1個人、4団体で、300以上あるソフィア会の登録団体からは金祝燦燦会が唯一の受賞団体となっています。

表彰式は、アガスティン・サリ総務担当理事の挨拶に始まり、それぞれの受賞者に佐久間勤理事長から表彰状、そして、李聖一カトリック・イエズス会センター長から副賞の賞金が授与されました。サリ先生は、「世界のどこの大学でも実現できていないフランシスコ教皇の上智への来学を一過性のものに終わらせるのではなく、永く記憶にとどめ、大学としてそのメッセージを実践し社会的責任を果たすためにも今回の基金が設立された。それが上智のアイデンティティーであり使命である。その意味でも、今回の受賞者は教皇のメッセージを継続して実践し世界に伝えてほしい」との挨拶をされました。

金祝燦燦会の濱口吉右衛門会長から、「金祝が終わっても大学の教育理念である『他者のために、他者と共に』を実践したいということで、燦燦会は『他者』を留学生に置き換えて活動している。我々は年金者であり出来ることは小さいが、留学生に深く、長く寄り添って教皇様のメッセージを少しでも実践できればと思って活動している。留学生の皆さんからは、逆に、勇気、元気、そして、感謝の気持ちをもらっており、燦燦会の会員にとって大きな励みとなっている」との挨拶がありました。また、濱口会長は受賞後、「今回の受賞は、ひとえに本会の創設に尽力いただいた60年卒の皆様と、その精神を引き継ぐべく、日頃から燦燦会の活動を支えて下さっている会員の皆様、そして、我々の活動をご理解いただいている上智学院及びソフィア会のご支援のたまものです。この受賞の喜びをすべての会員の方々と分かち合いたいと思います。」と語っています。

夢の実現に向けて

燦燦会では、第1回教皇フランシスコ来学記念基金受賞の副賞として20万円をいただきました。これを種火として将来、可能であれば基金を設立して留学生に還元したいということで、今、学院のソフィア連携室および大学の学生センターと協議を進めています。現時点で学院と合意できているのは、「一口千円募金」とは別に、募金対象が燦燦会の会員のみならず、いずれは、ソフィア会会員、在学生父母、さらには企業等の法人に拡大し広く寄付を募る「留学生夢支援募金」を設けることです。「一口千円募金」は従来通り燦燦会が主体で会員の方に寄付をお願いし、新たな「留学生夢支援募金」は学院主導で、会員以外からも広く寄付をお願いすることになります。燦燦会の夢は、基金を設立しその果実を留学生に還元することです。しかし、基金を設立するために必要とされる金額の達成はもちろん、設立に必要な手続きのハードルは非常に高く、長い道のりとなります。今後、会員の皆様へは、学院に基金設立に対する燦燦会の思いをご理解いただいていること、そして、「留学生夢支援募金」を設立していただくことの背景と目的を十分ご説明し、これから10年以上かかると想定される基金の設立を待つことなく留学生へ還元する方法についての議論を深め、一日も早く留学生への支援が実現するように努めます。

現在検討中の留学生への還元は、留学生が上智大学を卒業した後、大学で学んだ知見をそれぞれの母国あるいは日本でどのように活かし、実践していくかの「夢」を懸賞論文の形で語ってもらい、優秀な論文に賞金をだすものです。卒業後、留学生がそれぞれの出身国と日本の架け橋として活躍してくれることを期待すると同時に、受賞論文を公開することで一般学生が抱く留学生及びその出身国に対する理解と関心が高まり、相互交流が深まることが期待できます。このことは暁道学長が力説されている上智大学のグローバルキャンパス構想の実現に間接的に寄与することになりますし、また、留学生の出身国の多くに上智大学の同窓会組織があることから、留学生と現地ソフィアンとのつながりを積極的にサポートすることで、ソフィア会が提唱する「つなげよう、広げよう、深めよう、ソフィアンの絆」の具現化にもつながります。

留学生と共に

○ 勉学奨励金

「在留資格『留学』を有し、学部または大学院に正規生として在学している者で、学業成績が優秀かつ経済的支援が必要と認められ、将来国際社会に寄与すると思われる私費外国人留学生を対象とし、金祝燦燦会の各種イベントに積極的に参加し会員と懇親する意欲のある者。なるべく多様な国・地域から学生を選ぶ」ことを選考基準として金祝燦燦会では、学院の協力を得て、毎年、海外からの留学生10名に「勉学奨励金」を授与しています。今年は9カ国からの留学生が受賞しました。韓国、アメリカ、インドネシア、カメルーン、コロンビア、ナイジェリア、フランス、メキシコ、そして、中国からの留学生です。

○ 交流を深めています

コロナ禍前は授与式を兼ねて対面による懇談会を開催して受賞者との交流を図っていたのですが、今年は昨年に続きZoomによるリモート懇談会となりました。合同の懇談会に加え、もっと留学生の生の声を聴きたいということから、新しい試みとして受賞者との個別の交流会を企画し、これからは頻繁に開催することにしました。基本的にはZoomによる定例会議の前後となります。会員の方はどなたでも参加できます。

○ 留学生からのお礼（10名の受賞者全員の言葉を別ページに掲載）

「貧しい家庭環境にもかかわらず、夢一つを持って留学に来たと私が時々には情けないと思い、罪悪感を感じることもありました。しかし今回奨学金をもらって母の負担を減らすことができ幸せでした。母に奨学金をもらうことになったと伝えたら本当に喜ばれました。誇らしい娘、学生になれるように努力します。またこれから社会から受けた助けを返せる人になるために夢に向かって前進します。」(OH MINYOUNG、韓国、文学部新聞学科3年)

留 学 生 の 近 況 (3名以外からも届いています)

○ ザイラさんの場合 (SEILER ELISABETH RADA DESIDERIA、博士後期課程理工学研究科理工学専攻)



ザイラさんは昨年の受賞者です

卒業式のすぐあと、引っ越ししました。今、引っ越しカオスを片付けることを頑張っています。これからの職場も決まったばかりですが、とりあえず、11月から金沢大学でポスドク（研究員）として働きます。金沢で研究しながら、色んな大学（国内外）のポスト（助教）を応募したいと思います。燦燦会のメールを読んで、大変喜びました！卒業式も観てくださって、とても嬉しいです！お陰様で無事に卒業

ができ、本当に、ありがとうございました！！これからもよろしくお願いします！Dr. Elisabeth Seiler

○ パウリナさんの場合 (SAGASTEGUI PAULINA、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻博士前期課程2年)

個別に設けた交流会でパウリナさんは、「出身地の貧困問題を目の当たりにして、ローカルではなくグローバルな視点から解決すべきではないかとの疑問を持ち、自分の考えを追求するために上智大学を選んだ、そして、上智での研究成果を活かし、将来は国際機関で働き自分の経験を地元に戻元したい、来年3月に卒業するが当面は石巻で働いていろんな経験をしたい」等々、英語で自分の夢を熱く語ってくれました。

○ テイラーさん場合 (ZHANG YIFEI、中国、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻博士前期課程2年)

Thank you all so much for your time and effort organizing the zoom session the other day. It was a great experience getting to know the benefactors of Kinshuku Sansankai and other fellow awardees. Once again, I am really honored to be included as a recipient for the scholarship, and I believe everybody was as impressed and grateful as I was to learn that at Sophia University we have such a wonderful organization. I am really inspired by your work and devotion, especially during this hard time when we have such limited contact with the real outside world. I will continue my study with motivation and seek opportunities to play my part in the future. It'll be a great pleasure if we can keep in touch and perhaps have some gatherings when possible.

上智大学金祝燦燦会

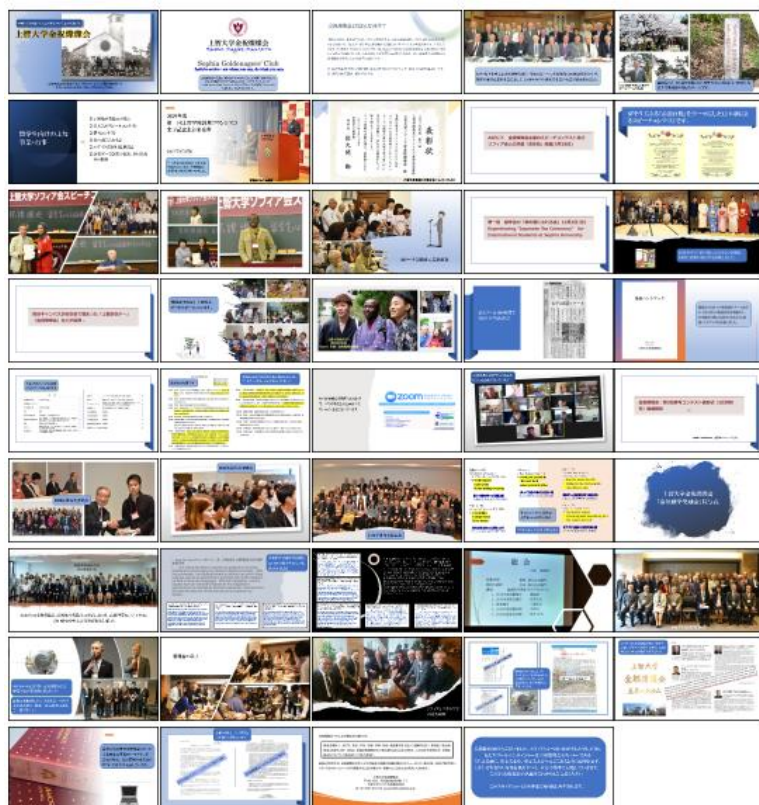
— 金祝燦燦会は世界でも大変ユニークな同窓会です —

卒業して50年経って入会できる同窓会、I haven't seen any organization as dedicated to the advancement of their Alma Mater and its students as the Sophia Sansankai. (カリー先生)

出来る時に、出来る事を、出来る人がヤル
Let's be active – act when you can, do what you can

金祝燦燦会の実態と燦燦会の基本的な考え方を表現するため、上記の日本語と英語のモットーを制定しました。我々燦燦会メンバーの年齢層をティーンエイジャーに倣い、「ゴールドエイジャー」と呼んでいます。現在の会員は約400名で、「他者のために、他者と共に」という大学の教育理念を、何とか金祝が終わって実践できないかとの思いで「他者」を「留学生」に置き換えて活動しているソフィア会の登録団体です。上智大学で学んでいる留学生に対して、ほんの少し、ほんの小さなことでも何かお役に立てることをしようという気持ちで活動しています。これが母校上智大学への貢献につながり、金祝世代の仲間との交流・親睦を深めることができると思います。留学生向けの主な事業・行事は、①金祝勉学奨励金の授与、②日本語のスピーチコンテスト、③俳句コンテスト、④茶の湯にふれる会、⑤AS F『お休処』懇親会、⑥大学の「浴衣デー」での浴衣の提供、着付け教室等の開催です。

ASFではスライドショーで燦燦会の活動を紹介しました



金祝燦燦会ではその実態と会の基本的な考え方として、「出来る時に、出来る事を、出来る人がやる」を会のモットーにしています。そして、その活動の中心を一貫して本学の外国人留学生の支援・交流に置き、それが留學生活の心の支えとなり、多文化共生社会の実現に向けた活動として教皇のメッセージに合致するということで、第一回「教皇フランシスコ来学記念基金」を受賞しました。ASFでは、校歌をバックに一部ナレーションを入れたスライドショーで燦燦会設立当時からさまざまなイベントを通じて受賞に至った経緯を紹介しました。多くの皆様にご覧いただきましたが、カナダ在住の大石様からは、「サイトをお送りいただき有難うございました。懐かしの校歌を聴き口ずさみながら拝見させていただきました。海外からあまりお役に立てないかもしれませんが、燦々会のご活躍を遠くより応援申し上げてお

ります。どうぞみなさま、ご健勝にてお過ごしくださいませ。」とのメッセージをいただきました。

スライドショーは、ソフィア会のホームページ、または、直接 YouTube でご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=c8SWc82gDEs>

燦燦会の業務ハンドブックができました

2019年の運営会議で、①役員の若返りと、②誰でも直ぐに業務を行えるようにする業務実施要領（マニュアル）の作成が提案されました。昨年初版を発行し、一年かけて見直しを行い、7月1日付で30ページに及ぶ第二版を発行することができました。今後も実務を通じて見直しを続けることになりますが、新しく役員に就任される場合の重要なバイブルとなります。

Zoom 会議に参加しよう

従来の対面による運営会議に代わる緊急手段として試行錯誤しながらスタートしたりリモート会議もすっかり定着し、定例の会議はもちろん、頻繁に行っている役員間の打ち合わせ、そして、何よりも重要なのは、留学生との懇談会や交流会にも利用しています。会員の方であれば、定例会議や留学生との懇談会や交流会には自由に参加できますので積極的にご参加ください。

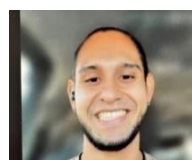
編集後記：ぼんやりとしていた燦燦会の「夢」が見えてきました。留学生に懸賞論文の形で夢を語ってもらい、優秀な論文に賞金を出す。一般学生にも公表し、留学生やその出身国に対する関心を高め大学のグローバルキャンパス構想にも寄与する。その原資として期待している基金設立のハードルは非常に高く長い道のりであることから、まずは「留学生夢支援募金」を設立し会員以外からも寄付を募る。この募金は学院が主導するもので燦燦会が主体である一口千円募金とは明確に区別される。そのため、外部から見ても共感を得られるような留学生支援活動に努め、10年と言わず、一年でも早く目標を達成し留学生への還元を目指す。実に大きな夢です。(MI)

受賞者からのお礼の言葉

今年勉学奨励金を受けた 10 名全員の留学生から礼状が送られてきました。その中から、5 万円の奨励金について述べられている部分を引用してみました。



○ 奨学金は生活費に半分、学習費に半分を使用する予定でございます。資金の問題で、買わなければならない本が買えなくて困っていたところ、奨学金をもらうことになって、買うことができるようになりました。もう一度心より感謝申し上げます。奨学生として採用していただいた分、私の発展のための資金として大切にに使わせていただきます。貧しい家庭環境にもかかわらず、夢一つを持って留学に来たと私が時々には情けないと思い、罪悪感を感じることもありました。しかし今回奨学金をもらって母の負担を減らすことができ幸せでした。母に奨学金をもらうことになったと伝えたら本当に喜ばれました。誇らしい娘、学生になれるように努力します。またこれから社会から受けた助けを返せる人になるために夢に向かって前進します。(OH MINYOUNG、韓国、文学部新聞学科 3 年)



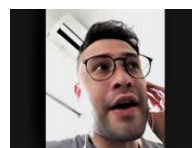
○ The pandemic has also made it so that my part time job decreased as we started teaching online, which also means that my income decreased. I am really grateful to the Kinshuku Sansankai because I can use this scholarship to pay for my last semester and be able to graduate. (MESA LUIS FELIPE、アメリカ、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻博士前期課程 2 年)



○ This letter I am writing is to express my sincere gratitude for the generous financial support towards my higher education. I am very grateful and honored to have been selected as one of the Kinshuku Encouragement Award 2021 Scholarship recipients. I cannot thank you enough for this act of kindness and generosity, and I hope to make great use of the scholarship. (CUT NAOMI NOOR AZMI、インドネシア、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻博士前期課程 1 年)



○ By awarding me this scholarship, my financial burden will become lightened as I will be able to secure an accommodation and buy some of my school needs and more quality time will be available for studies. I am inspired by your kind generosity and will give back to my community without reservation. (FRINWIE MISPA TAMUTAN、カメルーン、地球環境学研究科地球環境学専攻博士前期課程 2 年)



○ 金祝燦燦会様からのご支援のおおかげで、今年一年、より多くのことにチャレンジし、多くの知識を身につけ、研究に集中し、意義のある学生生活を送ることができます。改めてお礼申し上げます。Muchas Gracias de Corazon「心からありがとう」(TORRES JUAN SEBASTIAN、コロンビア、地球環境学研究科地球環境学専攻博士前期課程 2 年)



○ I am honored in a special way to be a recipient of the 2021 Sophia university kinshuku encouragement award of 50,000yen. Words alone cannot express my joy and happiness for this award. My parents back home are also thankful for this award. I am very grateful, and I want to use this opportunity to say a big thank you to Kinshuku-sansankai for finding me worthy of this great award.

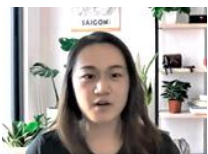
(OKONKWO OBINNA WILSON CHIZOBA、ナイジェリア、地球環境学研究科地球環境学専攻博士前期課程 1 年)



○ I would like to express my sincere appreciation to the kinshuku-sansankai for its assistance and generous financial support, as well as for the trust that this donation conveys towards my academic career, which I am deeply thankful for. I am very much confident in the fact that this offer will help me conduct my studies in an environment free of financial uncertainties, something which I valued a lot in my first semester, as I strongly believe that it has greatly contributed to my mindset and enable me to obtain good grades despite the important workload. Therefore, I also trust that using this donation for my living expenses and will enable me this year all the same to focus solely on the completion of my studies and maintain my grades to a satisfactory level. (DEBERT AWEN、フランス、地球環境学研究科地球環境学専攻博士前期課程 1 年)



○ I am planning to use the money from the Scholarship to pay my rent since that is one of my heaviest payments. I want to express my gratitude for the aid you are providing. All the help that we receive as students is well taken and extremely helpful. I hope you are able to continue financing students in the future since it is one of the best feelings to be able to receive such financial aid to survive during our stay in Japan. (SAGASTEGUI PAULINA、メキシコ、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻博士前期課程 2 年)



○ I have been taking online classes and working with two part-time jobs to financially support my living expenses here in Tokyo. Generally, everything's going well. And this scholarship will be used to pay for my rent at the university's dormitory. Thank you to all the sponsors who are providing it, the scholarship will be put into good use so that I can have more energy devoted into my academic studying. (ZHANG YIFEI、中国、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻博士前期課程 2 年)



○ As for my recent situation, since I am taking 4 courses this semester both online and face-to-face courses together with the preparation for graduation project and job-hunting, it is an extraordinarily busy semester for me, leaving barely no time for me to have a part-time job to support my daily expenses. With the help of this scholarship, I can allocate more of my time and effort on my study and research instead of taking part-time jobs to support my daily expenses. (ZHOU WANYI、中国、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻博士前期課程 2 年)